

株式会社イマナガ
2019年度 CSR報告書



本報告書は、株式会社イマナガのCSR（企業の社会的責任）に関する考え方や取組みについてステークホルダー（利害関係を有する方々）の皆様にはわかりやすくご報告し、ご理解いただくことを目指しています。

弊社では、このCSR報告書以外にもホームページや公益財団法人産業廃棄物処理振興財団の産廃情報ネットにてさまざまな情報を更新しております。

WEB サイト

公益財団法人産業廃棄物処理振興財団の産廃情報ネット

<http://www.sanpainet.or.jp/>

株式会社イマナガ ホームページ

<http://www.imanaga-r.co.jp/>

対象期間

2019年度（2018年8月1日～2019年7月31日）まで

対象組織

株式会社イマナガ

発行時期

2013年8月（初回）

2014年8月（2版）

2015年8月（3版）

2016年8月（4版）

2017年8月（5版）

2018年8月（6版）

2020年1月（7版）

【目次】

基本指針・環境方針	1
トップメッセージ	2
会社概要	3
組織体制・ISO14001：2015への取組み	4
CO ₂ 排出量の把握	5・6
デジタルタコグラフ設置車両の燃費	7
従業員教育（外部）	8・9
従業員教育（内部）	10・11
太陽光発電の状況	12

基本指針・環境方針

基本指針

株式会社 イマナガは、廃棄物の資源化・有効利用を継続して実行することを最終目的とし、廃棄物を適切に処理することによって環境負荷を低減し、処理技術の向上に努め、収集運搬から中間処理まで一貫したシステムによる再資源化 100%を目指し、循環型社会づくりに貢献する事業活動を行います。

環境方針

1. 当社事業活動の廃棄物の資源化・有効利用を促進するうえに於いて、気候変動の緩和及び気候変動に適応し、継続可能な資源の利用のため、省資源・省エネルギーを推進し、環境保護に努めます。
2. 生物多様性を維持するため、地域貢献活動への参加並びに森林認証製品等のグリーン購入を推進し、また環境影響に関しては自主基準値を設定し、汚染の予防に努めます。
3. 環境保護活動を有効なものにするために環境目標を設定し、継続的な改善を行います。
4. 環境関連の法規制、その他の要求事項を遵守し、取引先、出荷先等を含めてコンプライアンスの強化を図ります。
5. 地域社会との協調を図り、情報開示とコミュニケーションに努めます。
6. この方針は社内外に開示するとともに、全従業員及び当社に係る事業者に周知します。

2017年 7月 1日
株式会社 イマナガ
代表取締役 今永 進二

トップメッセージ

“SDGs”世界を変えるための17の目標（SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS）2015年9月にサミットで採択された2016年から2030年までの国際目標です。

持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されています。

環境省が平成30年8月に作成している「プラスチックを取り巻く国内外の状況」の資料に掲載してありますが、日本が国連加盟国の中で使い捨てプラスチック対策が遅れていることがよくわかります。2017年に中国政府の固体廃棄物の輸入規制後、廃プラスチックの受け皿となっている東南アジアにおいても輸入禁止を決定しており日本のプラスチックごみや電子機器等の行き場がなくなっていることがニュースにもなりました。

弊社も、容器包装リサイクル再商品化事業により国内でのリサイクル事業を行っていましたが、諸事情により2016年7月に撤退しましたが、産業廃棄物処理業者として様々なリサイクルに取り組んでいます。

1996年よりプラスチック類の処理が増加するとの予測を基に、破砕機の設置や、圧縮梱包機の設置等、廃プラスチック処理の分別処理を手掛けてきました。

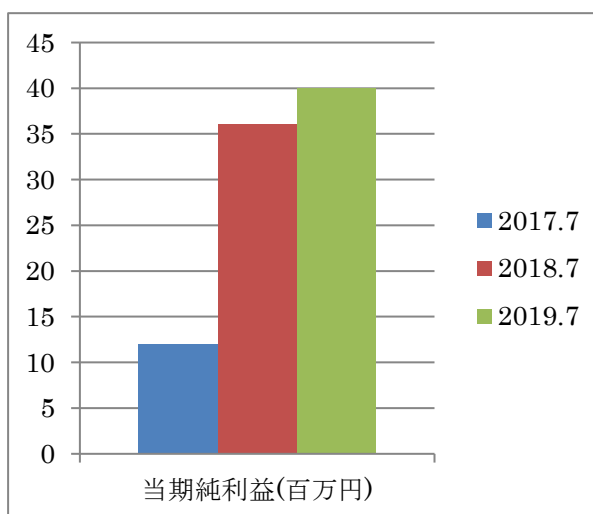
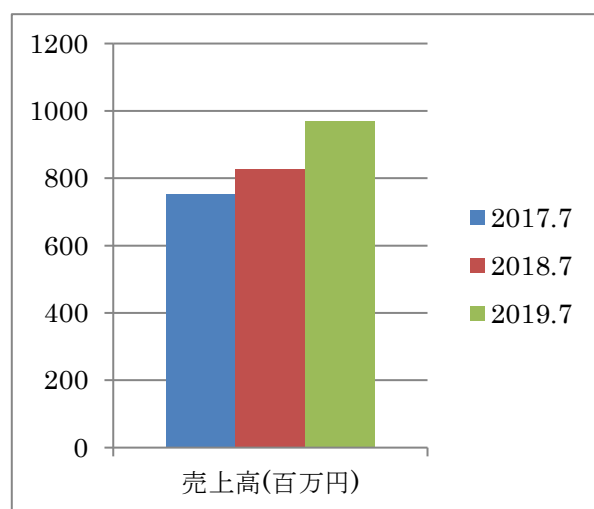
プラスチック製品が多様化し、いろいろな品物が安価で製造されてきましたが、その処分方法がどのようになっていたかは国民一人一人には伝わってはいなかったと思います。商品を運ぶためのレジ袋も当然のように無料で配られるという生活を高度成長とともにやってきた私たちに対する、自然界の警鐘なのだと思います。

弊社の廃棄物処理は、このような状況の中ではたった一握りのリサイクル量にすぎませんが、社員一丸となりこれからの未来に生きる人達のために、環境汚染の無い住みやすいきれいな地球の実現にむけて努力していきたいと思えます。

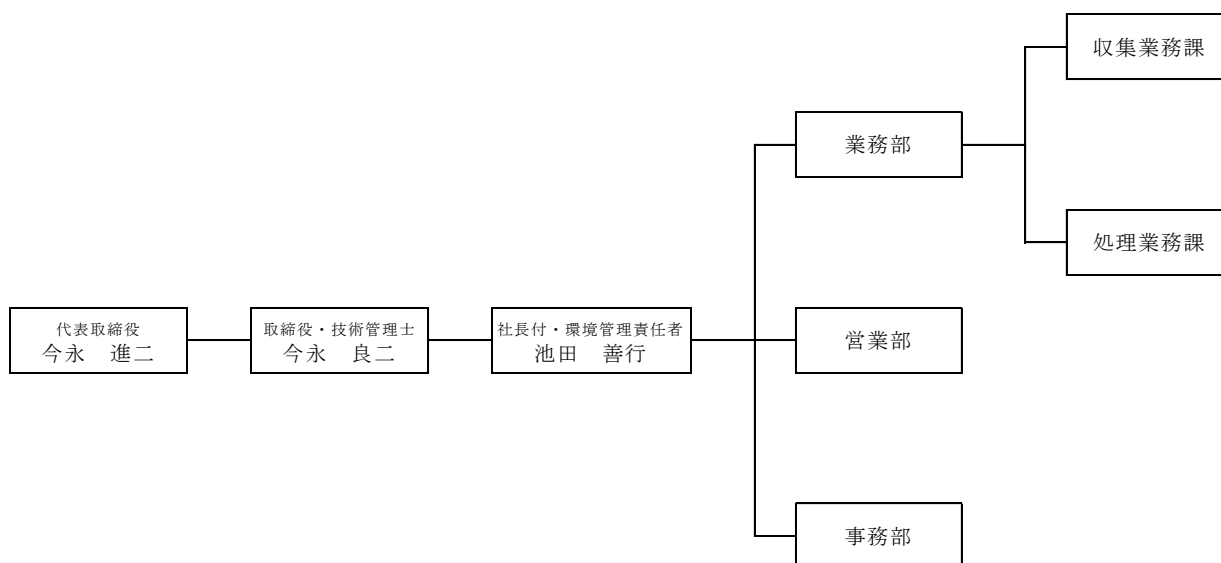
会社概要

商号	株式会社イマナガ
所在地	〒800-0115 福岡県北九州市門司区新門司三丁目 38 番 2 号 TEL093-481-5097 FAX093-481-5098 Mail : info@imanaga-r.co.jp
代表者名	代表取締役 今永進二
役員	取締役 今永良二 監査役 今永洋子
従業員数	43 名
工場所在地	本社工場・第一工場 福岡県北九州市門司区新門司三丁目 38 番 2 号 第二工場 福岡県北九州市門司区新門司三丁目 38 番 1 号 MR 工場・MR 第二工場 福岡県北九州市門司区新門司三丁目 41 番
資本金	50,000,000 円
ISO14001 認証番号	JQA EM-1520 (2001 年 4 月 13 日登録)
取引銀行	福岡銀行 門司駅前支店 北九州銀行 門司支店

売上高と当期純利益の 3 年間の推移



株式会社イマナガ組織体制 (2017年8月1日改訂)



ISO14001 : 2015 による環境への負荷低減の取り組み

期間	重点目標
2017. 8. 1～2018. 7. 31	2018. 3. 23 ISO14001:2015 に規格改訂
2018. 8. 1～2019. 7. 31 (2019. 4. 13)	2017. 12. 14 G マーク更新 (2018. 1. 1. ～2020. 12. 31 迄) ISO14001:2015 更新審査

現在までの取組からの変更点

2019年3月の更新審査により登録証がISO14001:2015年版になりました。

これまで行ってきたISO14001の活動も、年度ごとに変化を遂げ、手順書を作成したのちの教育が重要であり、ただ教えられたことをするだけではなく、この作業は何のためにしているのかを自分で理解できるような教育を行っていくことが重要になっています。

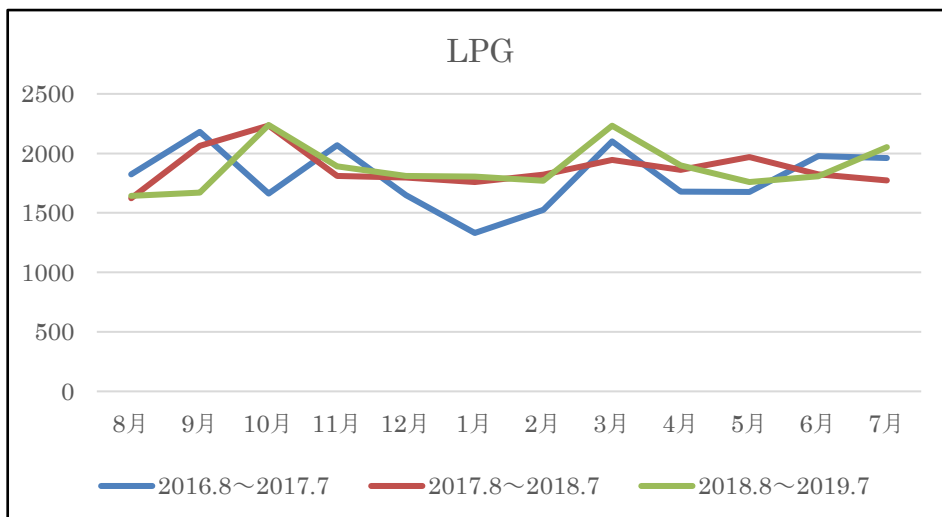
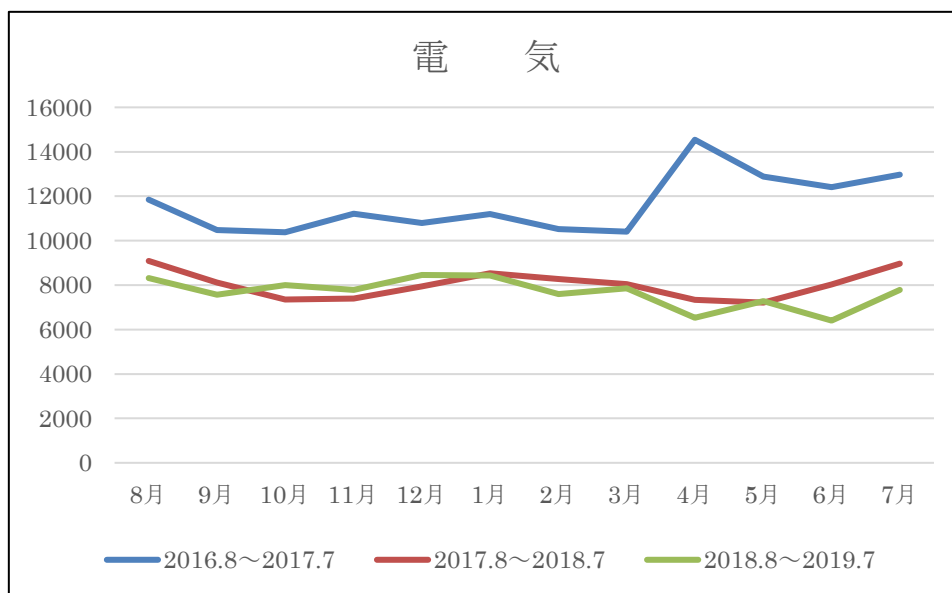
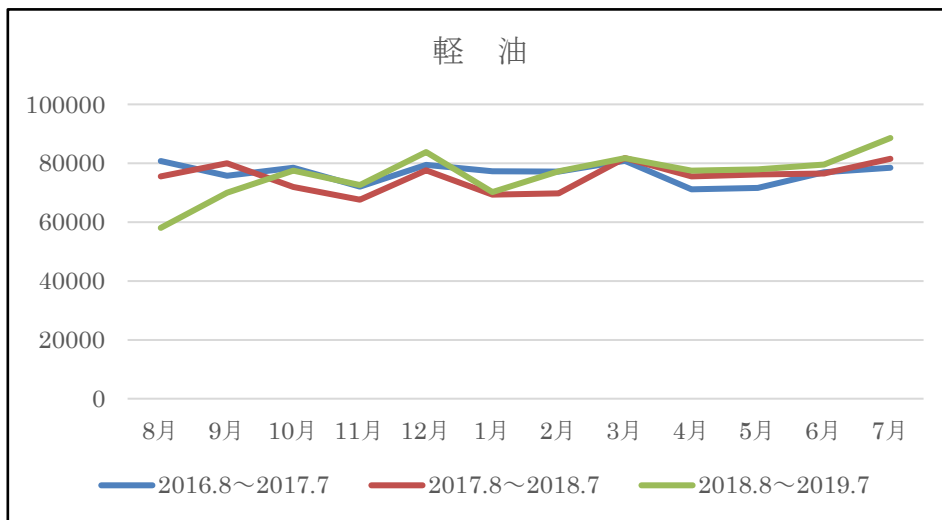
現在までの取組により確立したもの

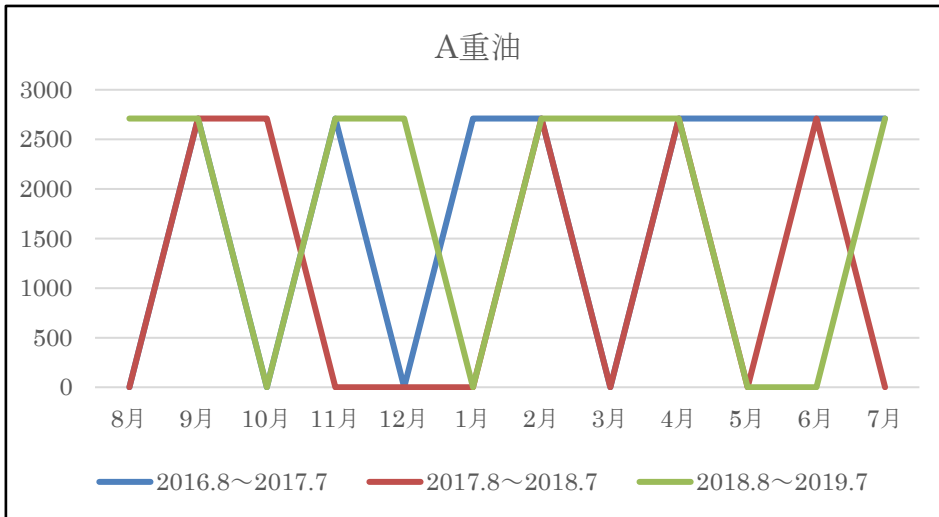
廃棄物処理について、安全で確実な作業ができる手順書を作成し、教育を行い変更点を手順書の改定につなげ、また再度教育を行うという流れはこれまでの取り組みによりできていると思いますが、従業員一人一人の意見により改定を行っていくという取り組みがまだ確立していないように感じます。意思伝達は上から下へではなく、下から上へあがっていく環境を作っていくことが、刻々と変化していく状況に対応できる会社になるのではないかと考えています。

書類を作成することで活動を行っていくのではなく、産業廃棄物処理業者として出来ること、環境にかかわる仕事をしている弊社だからできる情報発信なども行っていければと思っています。

会社内で使用する燃料についてのCO₂排出量の把握

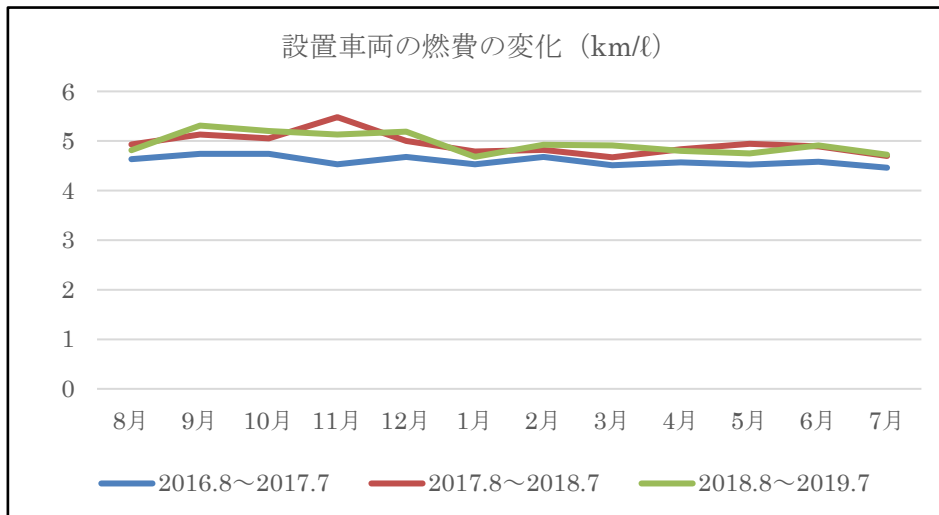
※単位はすべて kg/CO₂ です





※環境省の温室効果ガス排出量計算のための算定式及び排出係数一覧表による

デジタルタコグラフ設置車両の燃費（40台）



デジタルタコグラフ設置後の車両について

現在 40 台の車両にデジタコを設置しています。ISO の目標で「貨物自動車運送事業安全性評価事業(G マークの取得及び継続活動)」を目標に頑張っています。

運転手教育の手段として、ドライビングパートナーには、急ハンドルや急加速を行ったときに自動で映像を撮る機能がついているので、どのような状況で急ハンドルや急加速をしたのかを確認できるようになっており、その部分を抜き出して教育の資料としています。

また、事故の際など自動車のブレーキランプやウインカーの状況等も把握できるので、資料として役立っています。

自社内にパソコンを設置し、独立行政法人自動車事故対策機構(NASVA)の適性診断の測定システムを利用し、運転者全員の診断を行いました。運転手の性格、運転態度、認知・処理機能、視覚機能などについて、心理及び生理の両面から個人の特徴を把握し、安全運転に役立つアドバイスを記載した適性診断票が発行され、自分の運転を見直すきっかけになっています。

今年度は数台の車両の入れ替えを行いましたので少しですが、燃費が上がっています。

従業員教育

外部教育（2018年8月から2019年7月まで）		
年 月 日	内 容	参加人数
2018.9.3	危険物取扱者定期講習	2名
9.4	危険物取扱者定期講習	2名
9.5	顧客先入門講習	2名
9.6	危険物取扱者定期講習	2名
9.7	女性と子どもの安全みまもり企業研修会	1名
10.5	副安全運転管理者講習	1名
10.10	福岡県産業廃棄物処理業者講習会	1名
	整備管理者定期講習	1名
10.11	運転者適性診断(初任診断)研修	1名
10.16	過労死等防止・健康起因事故防止セミナー	1名
10.19	安全運転管理者講習	1名
	副安全運転管理者講習	1名
12.1	交通労働災害防止管理者講習	1名
12.13	顧客先入門教育	1名
12.14	顧客先入門教育	1名
12.17	顧客先入門教育	1名
12.25	顧客先入門教育	1名
2019.1.22	働き方改革関連に関する説明会	1名
1.26	積卸し作業指揮者	1名
2.5	身近な危険を見える化!!目指せ!!ゼロ災研修会	1名
2.8	九環境オープンセミナー	1名
2.18	顧客先入門安全教育	2名
2.19	顧客先安全大会	1名
2.21	管理職者向けマネジメントスキル研修会	1名
2.25	顧客先入門安全教育	2名
2.28	顧客先入門安全教育	2名
3.3	移動式クレーン定期自主検査者安全教育	1名
3.4	顧客先入構教育	1名
3.7	顧客先入構教育	1名
3.8	優良産廃処理業者認定制度説明会	1名
3.12	顧客先入構講習	1名

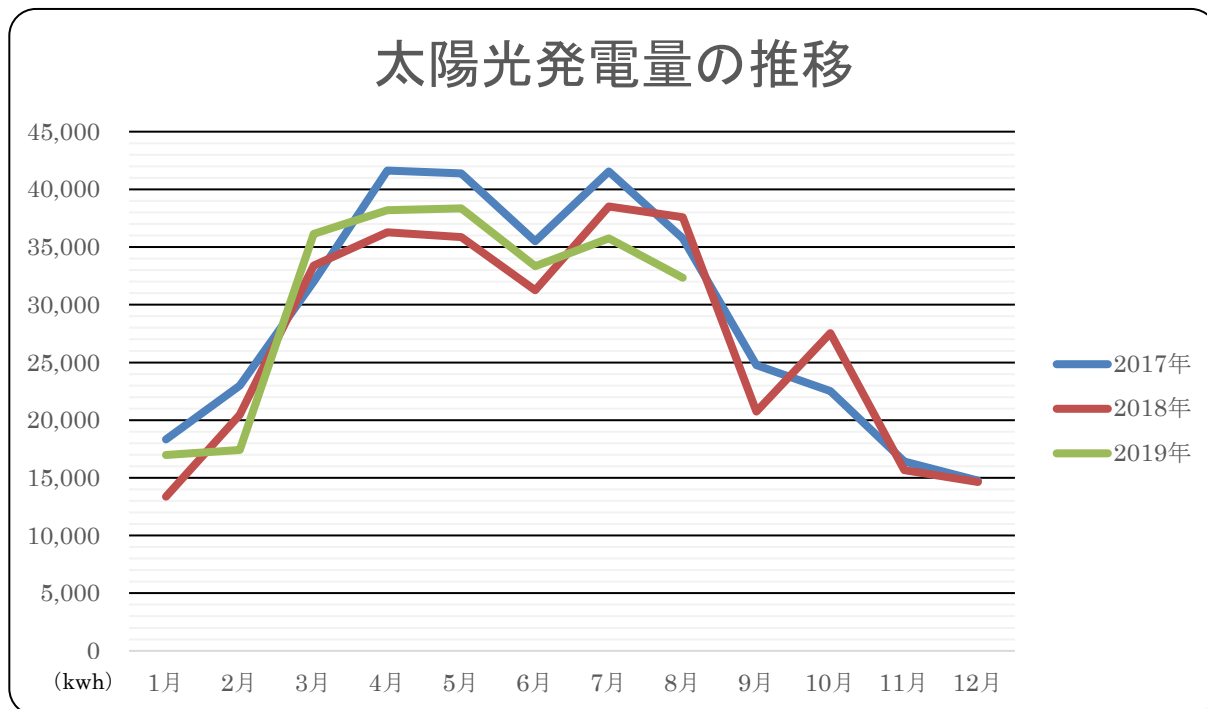
外部教育（2018年8月から2019年7月まで）		
年 月 日	内 容	参加人数
3.13	顧客先入構教育	1名
3.16	フルハーネス型安全帯使用作業特別教育	1名
3.18	顧客先入門安全教育	1名
3.19	運転者適性診断(初任診断)研修	1名
	顧客先入構教育	1名
3.25	顧客先入門安全教育	2名
	顧客先入構教育	1名
3.26	顧客先入構教育	1名
3.27	顧客先入構教育	1名
3.28	顧客先入門安全教育	3名
	顧客先入構教育	1名
4.1	顧客先入門安全教育	2名
4.10	顧客先入門安全教育	3名
4.11	顧客先入門安全教育	2名
4.15	顧客先入門安全教育	2名
4.17	顧客先入門安全教育	2名
4.18	顧客先入門安全教育	1名
4.22	顧客先入門安全教育	2名
4.23	顧客先入門安全教育	1名
4.25	顧客先入門安全教育	3名
6.11	顧客先入門講習	1名
6.26	顧客先入門安全教育	2名
6.27	顧客先入門安全教育	3名
7.23	産業廃棄物実務従事者研修会	1名
7.25	顧客先入門安全教育	3名
7.29	顧客先入門	2名

内部教育（2018年8月から2019年7月まで）		
年 月 日	内 容	参加人数
2018. 8. 31	顧客先廃棄物の管理及び適正処理について	9名
9. 3	廃棄物回収時のコンテナ確認について	17名
10. 1	雇入れ時の教育	1名
10. 10	雇入れ時の教育	1名
	回転式大型切断機管理手順による教育	1名
10. 11	フォークリフト運転管理手順書による教育	1名
10. 20	車両操作説明及び注意点などの教育	1名
10. 22	運行管理者による新人運転手の同行教育(4日間)	1名
10. 27	顧客先構内作業に係る注意事項	10/29・11/1 計20名
	携帯電話の使用方法の注意事項確認	
10. 30	圧縮梱包機管理手順による教育	1名
11. 20	合わせガラス破砕機管理日報による教育	1名
12. 7	雇入れ時の教育	1名
2019. 1. 5	雇入れ時の教育	1名
1. 7	運行管理者による新人運転手の同行教育(4日間)	1名
1. 8	油水分離施設管理手順による教育(9日間)	1名
1. 18	万能一軸破砕機運転管理手順による教育	1名
1. 19	緊急時対応手順による教育(災害発生緊急時対応手順)	14名
1. 30	水処理施設管理手順による教育	1名
2. 13	労働災害の抑制、防止について	20名
2. 21	万能一軸破砕機運転管理手順による教育	2名
3. 1	フォークリフト運転管理手順書による教育	1名
	蛍光管破砕機管理手順による教育	1名
3. 7	万能一軸破砕機運転管理手順による教育	2名
3. 8	蛍光管破砕機管理手順による教育	1名
3. 9	緊急時対応手順による教育(車両からの流出・漏洩)	20名
3. 20	混合機作業管理手順による教育	1名
3. 29	合わせガラス破砕機管理日報による教育	1名
3. 30	緊急時対応手順による教育(加熱槽破損による漏洩)	3名
4. 8	圧縮梱包機管理手順による教育	1名
4. 11	インゴット作業管理手順による教育	1名

内部教育（2018年8月から2019年7月まで）		
年 月 日	内 容	参加人数
2019. 4. 11	粉砕機作業管理手順による教育	1名
4. 13	顧客先構内安全ルール教育	3名
4. 17	固化ピット(バキューム)管理手順	3名
4. 27	環境汚染のある作業従事者への教育のお願い	14名
5. 2	金属圧縮機管理手順による教育	1名
5. 17	中和装置運転管理手順による教育	4名
5. 20	顧客先別収集運搬・処分カード運用手順の教育	17名
5. 20	車両等接触事故による緊急教育実施	20名
5. 21	フォークリフト運転管理手順書改定による教育実施	11名
	顧客先別収集運搬・処分カード運用手順の教育	9名
6. 15	顧客先安全教育資料による環境教育	20名
7. 3	緊急時対応手順による教育	11名
7. 4	熱中症対策・対応教育の実施	41名
7. 27	顧客先熱中症防止対策資料による教育	18名

太陽光発電（イマナガ発電所）の状況

発電出力 306.0kW



太陽光発電について

弊社は、再生可能エネルギーとして太陽光発電を選択いたしました。2013年より順調に稼働し、新制度の事業計画を2017年4月に再度申請し5月末に受理されました。

昨年不良個所を交換し、パネルの汚れも昨年ほどではなく順調に発電しています。年数がたつほど発電効率が落ちていくのですが発電は例年と変わりません。ホームページにも一週間の発電量を載せています。

毎年異常気象が起っていますが、設置してから一度も被害にも合わずに発電してくれていることに感謝です。

